

1 プローブ DNA の標識と熱変性

ニックトランスレーションなどの酵素処理によって目的とする DNA に、ビオチン-16-dUTP やジゴキシゲニン-11-dUTP などを**標識**させ、回収・精製したのちホルムアミドに溶解する。その後、70°Cで10分間加熱しプローブ DNA を**変性**させる。*Alu* や *L1* のような反復配列を含むプローブを用いる場合には、*Cot-1* DNA やヒト胎盤由来全 DNA (HPD) を用いて反復配列を抑制する必要がある。

注意 市販のプローブは、ビオチン-16-dUTP やジゴキシゲニン-11-dUT (間接法)、あるいは Spectrum Orange-dUTP や Spectrum Green-dUTP など (直接法) によって標識されている場合が多い。詳細は他書を参照されたい。